

県の糖尿病治療 集積構想

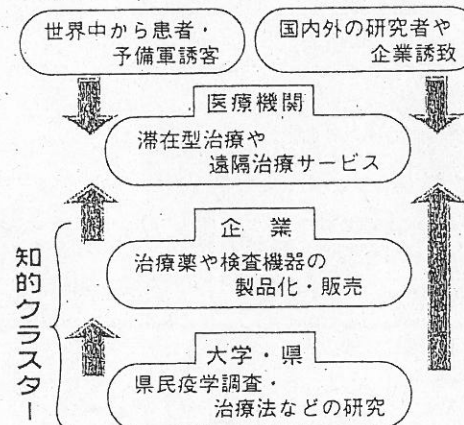
国の新産業支援事業に

5年で15億円支給

徳島県は3日、産学官が連携した新産業創出などを支援する文部科学省の「知的クラスター創成事業」の実施地域に選ばれた。徳島大学を中心に糖尿病の治療法や治療薬の開発、製品化を進める計画で、文科省から毎年3億円程度の事業費が2009～13年度の5年間支給される。県は、糖尿病研究開発治療拠点の集積を図る構想を打ち出しており、その核が知的クラスター事業。今回の予算獲得で、構想の実現が加速しそうだ。

県の知的クラスター創成事業は、徳島大学病院大、県工業技術センターの糖尿病対策センターが中心に①治療法の治療薬と機能性食品③検査・初予算に事業費7900万円を盛り込んだ。事業の特徴は、研究がすべて実用化を前提に進められる点だ。既に製薬や食品製造など県内外の17社が共同研究や製品化

県糖尿病研究開発治療拠点集積構想



員の医療機関や飲食店を通じて提供。全世界で約08年も再び最悪となった。深刻な状況を受け、

2億5000万人といわれる糖尿病患者と予備軍を招き入れ、県内経済や観光の活性化にもつなげる。

県内の糖尿病死亡率は06年まで14年連続で全国ワースト1位を記録し、

県は県民の健康づくりと新産業創出を兼ねた集積構想を策定。その中核となる知的クラスター事業の予算が獲得できたことで、事業の規模拡大や実現期間短縮に期待が掛けられる。

国の知的クラスター創成事業は徳島のほか、北海道・函館、山口、福岡県・久留米の3地域が選ばれた。

一大拠点を築く
飯泉嘉門徳島県知事の話 知的クラスターを核に研究開発治療拠点の集積を進め、糖尿病死亡率ワースト1位からの脱却を目指す。アジアをはじめ、世界中の患者にも貢献できる一大拠点を築きたい。